

高強度腹起し材「丸藤 550」運用開始

—都市部大深度工事に対応、支保工のスリム化を実現—

丸藤シートパイル株式会社（本社：東京都中央区）は、2026年4月より高強度腹起し材「丸藤 550」の運用を開始いたします。

近年、首都圏を中心とする都市部では大深度掘削工事が増加しており、大型かつ高強度な山留支保工材への需要が高まっています。山留支保工材においては、現行最大サイズである YH-500×500×25×25 では、必要強度を確保するために2列配置を余儀なくされる現場も多く、支保工全体の重量増加や、大深度掘削現場における架設工程の増加が課題となっていました。こうした課題解決のため、この度「丸藤 550」を開発いたしました。

「丸藤 550」は高強度鋼材を採用することで、鋼材重量の増加を従来（YH-500）比、約3%に抑えつつ、曲げ耐力を従来（YH-500）比、約2倍に向上させました。また、通常、曲げ耐力の向上には梁成（幅寸法）の拡大が有効ですが、都市部の狭隘な作業空間では施工性への影響が懸念されることから、弊社では、従来の YH-500 と同等の取り回し性を維持しながら必要強度を確保することを目的に、梁成のみを550mmとする仕様を採用しました。

これにより、従来2列設計としていた支保工配置を1列で対応可能とし、構造のスリム化および設計自由度の向上を実現しました。したがって「丸藤 550」を山留壁面側の腹起し材として使用した場合、従来（YH-500）比、腹起し材の重量を約50%削減できます。重量低減に伴い、架設工期も同程度の短縮が見込まれ、工事費および現場経費の削減への寄与が期待されます。

「丸藤 550」は都市部における高コスト案件に対し、施工性と経済性を両立できる製品となっております。

弊社は今後、首都圏を中心とする都市部の大深度掘削現場への展開を積極的に推進するとともに、中長期的な保有量の拡充を図り、多様化・高度化する施工ニーズに対応してまいります。